

* 水道事業を 考えてみよう *

蛇口をひねれば水が出る — 今、私たちは水道の利便性を全く空気と同じように感じています。水道は、私たちの健康で文化的な生活を支えるにはなくてはならない施設です。

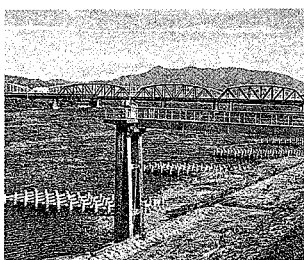
6月1日から7日まで、水道週間。1日も休みなく、大切な水を安定供給している水道事業をこの機会に考えてみましょう。

また、今回の特集では、私たちにとって関心のある水道料金にも触れ、新津市の水道事業の現状を見てみることにしました。

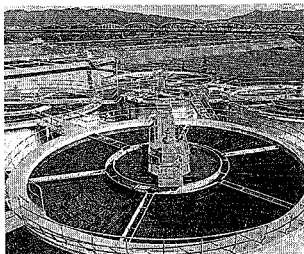
水道の水は
きれいな
おいしい



幸 清 水



阿賀野川の取水塔



満願寺浄水場

水資源と水道水

その後、こうした合併に伴う遠距離給水のための当時の古い施設は改良され、または拡張され、現在では飲料水の安定供給体制が確立しました。水は蛇口をひねれば出るもの、というウラには、河川の水源確保と下水道事業の健全な発展があったおかげとも言えるでしょう。

水道水は、初めから

幸清水に長蛇の列
飲料水は、私たちの暮らしに一日も欠かすことができません。その昔、秋葉山麓の「幸清水」や「桜清水」などには朝夕水汲みの長い列が続いたといいますから、飲料水の確保は大変な苦労でした。地下水の水源に恵まれないことから、町村合併も飲料水確保のための合併と言っても過言ではない時代がありました。

きれいで豊富なものではありません。ダムやせきを作り河川の水源を確保することから始まり、表流水を取水、浄水場で浄化殺菌の処理を経て配水池へ送られ、水の需要に合わせて皆さんのご家庭に給水されます。

水資源確保で

市政発展へ

地球上の水のうち九九％が海水と氷山。残り一％の九割が地下水、一割が河川を流れる表流水です。この〇・一％に過ぎない河川の表流水は、異常気象によって不足を生じることがあるため、水源確保のダム建設が問題化しています。

比較的河川に恵まれている当市ですが、いろいろな水利権がからみ、水道水としての水資源確保は決して容易ではありません。

昭和六十一年度で完了した第六次拡張計画では、将来の水需要を見込み市政発展に支障をきたさないようこの水資源を確保しました。